

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	多機能施設の良さを生かして、利用者状況に合った支援を行っています
	内容	法人は重度心身障害者のための当施設のほか生活介護と就労継続支援B型作業所、グループホームやショートステイを一体的に運営している事業所です。そのため、利用者の状況や状態の変化に合わせて、利用するサービスの見直しを柔軟に行っています。提供しているサービスが利用者に合わなくなった場合には他のサービスへの移行もスムーズに行えるように取り組んでいます。生活介護利用者が就労継続支援B型に移行したり、グループホームやショートステイ利用を通じて家族支援や利用者の地域生活の向上を目指しています。
2	タイトル	利用者一人ひとりを尊重した支援ができるように職員全体で取り組んでいます
	内容	利用者は通所後3つのグループに分かれて、午前中は機能訓練やアルミ缶つぶし、紙漉き作業、散歩や買い物に行くなどの活動をしています。昼食をとるタイミングや食べ方も一人ひとりに寄り添って行えるように丁寧に話しかけながら行っています。休憩を取る際には、パーティションやマットを使って、静かに過ごせるように工夫しています。午後のプログラムも個別の特性や残存機能を活かした活動が出来るような内容を取り入れながら、どのような場面においても利用者の意思を大切に支援ができるように取り組んでいます。
3	タイトル	穏やかな雰囲気の中で、利用者はゆったりと食事を楽しむことができます
	内容	利用者によっては一口食べる時間が長く、なかなか食事が進まないケースがあります。しかし、マンツーマンでついている職員は気長に待ち、利用者の動きが激しい場合には職員が優しく体を寄せて包み込むと利用者は落ち着きます。嫌いな食べ物も根気よく口に持っていき、バランスの取れた食事提供を心がけています。静かなBGMが流れる中で、個々の利用者のペースに合わせて楽しい食事時間の提供ができています。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	気づきメモを活用して、利用者に対する根拠のある仕組みの構築が期待されます
	内容	意思表示が難しい利用者が多く、職員は普段から口元・声・手・足等の動きに注目して情報共有し、支援にあたっています。より根拠のある支援を行うために、担当職員だけではなく職員全員が利用者について感じたこと・気づいたことがあればメモにして箱などに入れ、リーダーを中心に確認しながら、利用者の意思の確認や選好を考え、最善の利益を検討する仕組みを作ることが課題となっています。また、気づきメモはリスクマネジメントとしても活用できるため、PDCAサイクルに基づく、より効果的な課題解決が期待されます。
2	タイトル	家族の高齢化によるさまざまな課題を想定した対応策の準備が望まれます
	内容	家族の高齢化や介護力の低下が利用者にとっての今後の大きな課題となっています。親なき後を見据えた利用者の権利を守り安定した生活を送るために、成年後見制度等のいくつかの選択肢があります。家族の持つ利用者への思いの強さや後見人制度への不安感などからこれらの制度についての理解が進みにくい状況があります。家族が安心して利用できるよう、利用者一人ひとりの家族の状況に合った制度の情報提供ができるよう、地区の成年後見センターや市役所の関連部署など関係機関との一層の連携を取りながら理解を進めることが望まれます。
3	タイトル	専門家からのアドバイスによる支援内容を映像化することで、家庭での応用や職員全体での共有化の促進を期待します
	内容	療育センターや歯科医師と連携して、利用者一人ひとりへの機能訓練の方法や口腔ケア、口周りのマッサージ法、食事時の姿勢や食形態、自助具が利用者の状態にあっているか等の指導を受けています。指導の時には家族にも参加を働きかけ、指導内容は他の職員にも分かりやすいように写真付きで記録しており、全ての職員で共有することを目指しています。支援の内容を映像化することで家族も一連の流れを理解したり、何度も確認することが出来ます。また、職員が替わっても理解しやすく、記録の負担軽減など業務の効率化にもつながると思われれます。